

教育課程研究委員会「基調報告」のスライダー1

前号(第282号)で報告した全国高等学校長協会(全高長)の教育課程研究協議会で教育課程研究委員会委員長である私が発表した「基調報告」のパワーポイントスライド全27枚を2号(今号と次号)にわたって掲載します。◆小さい字も拡大すると読めます!今年度の研究協議主題と3つの柱立ては以下の通りでした。

研究協議主題 「次期学習指導要領改訂に向けた教育課程の研究」

研究協議主題に添った3つの柱立て

- ① 「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげるための取組と課題
- ② 「英語の4技能習得」のための取組と課題
- ③ 学校の教育力を高めるための「カリキュラム・マネジメント」の取組と課題

全国高等学校長協会
平成29年度 教育課程研究協議会
2017.9.25(MON)

研究協議主題
「次期学習指導要領改訂に向けた教育課程の研究」
平成28年度・平成29年度主幹 茨城県(委員12名)

全国高等学校長協会教育課程研究委員長
茨城県立並木中等教育学校 校長 中島博司

I 概要

- ◎回答校48校(全て公立校)による「アクティブ・ラーニング」(以下一部を除きALと記載)の開始年度は、平成27年度が18校(38%)、平成28年度が16校(33%)。
- ◎授業展開では、ICTを活用している学校が18校(38%)、校内組織では、ほとんどの学校でAL推進担当者がい。
- ◎施設設備に関して、全教室へのプロジェクターまたは電子黒板の稼働は3割程度。Wi-Fi環境の整備やタブレットの普及については、2割程度。ミニホワイトボードやスクールタイマーの整備が進行。ALで使いやすい部屋を作っている学校が2割(LL教室の改良、空き教室の利用等)。
- ◎成果普及について、公開授業の実施、研究大会での発表、学校HPでの発信等により、回答校が都道府県のAL推進のリーダーとなっている。

主な取組③

- ◎施設設備について
 - ★特にICT環境について
 - ・全教室にプロジェクターがある(13校・27%)
 - ・全教室に電子黒板がある(2校・4%)
 - ・タブレットが10台以上ある(9校・19%)
 - ・全教室にWi-Fi環境がある(9校・19%)
 - ★その他のAL関係の施設設備
 - ・ALで使用するミニホワイトボードが整っている(13校・27%)
 - ・ALで使いやすい特別な部屋がある(10校・21%)
 - ・全教室にスクールタイマーがある(8校・17%)
- ◎取組成果の普及・共有方法について
 - ・公開授業の実施(34校・71%)
 - ・研究大会の実施(30校・63%)
 - ・学校ホームページで発信(10校・21%)
 - ・報告書作成(10校・21%) ・広報誌発行(4校・8%)

IV 考察

- ・昨年度に引き続きALについて調査・分析をして率直に感じたことは、公立高校のALの取組が、一歩前進した点にある。
- ・学力向上につなげるALの取組の記載が少なかった。高校におけるAL推進の重要テーマである。授業展開については、ALの多様化が見られた。
- ・施設設備面では、ICTの整備が十分ではなかった。今後、ICTを活用したALを推進していく上でも、ICT環境の整備が急務である。
- ・今後の課題が多かったのは「評価」についてだったが、「観点別評価」を確実に実施することが、高校での第一歩である。
- ・次期学習指導要領には、記載されないことになったが、ALの火が消えたわけではない。ここ数年、高校では「アクティブ・ラーニング」の旗のもとで進んで「授業改善」が進展しており、さらに「深い学び」への深化が模索されている。
- ・今、我々は明治維新以来と変わらない教育改革の中にある。「高校生のための学びの基礎診断」「大学入学共通テスト」の実施方針も発表され、いよいよ高校教育の大きな転換期が来たと、日本の教育の未来のため、生徒たちの未来のため、「授業改善」の取組がますます求められている。

研究協議主題に添った3つの柱立て

- ① 「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげるための取組と課題
- ② 「英語の4技能習得」のための取組と課題
- ③ 学校の教育力を高めるための「カリキュラム・マネジメント」の取組と課題

全国調査について(2017年6月下旬～7月下旬に実施)

- ◆調査項目(上記3つの柱立てについて)
- ◆各都道府県で、先進的あるいは特色ある取組をすすめている高等学校1校以上、1校以上1科目程度(7～8月に茨城県教育委員会等に分析・考査)
- ◆実施状況について ①教育課程 ②教員の指導力向上 ③校内組織 ④施設設備 ⑤取組成果の普及・共有方法 ⑥その他
- ◆今後の課題(自由記述)

主な取組①

- ◎授業展開について
 - ・ICTの活用(18校・38%)
 - ・知識構成型ジグソー法の実施(8校・17%)
 - ・「KJ法」の実施(4校・8%)
 - ・協同的な学び合いの実施(3校・6%)
- ◎教員研修について
 - ★実施している(47校・98%)
 - ・外部講師に依頼(38校・79%)
 - ・先進校視察・外部セミナー参加(23校・48%)
 - ・校長が実施(2校・4%)

II 課題

- ◎主な課題
 - 評価に関する課題(17校・35%)
 - ・評価方法の研究(8校)
 - ・ルーブリックの作成(5校)
 - ICTに関する課題(15校・31%)
 - ・ICT活用の探究(8校)
 - ・ICTの施設設備の充実(6校)
 - 学力向上に関する課題(14校・29%)
 - ・学力向上につながることを立証していく必要がある(9校)
 - ・学力向上に確実に結びつく取組とする(3校)
 - その他の課題
 - ・「深い学び」の実現に関すること(8校・17%)
 - ・教員研修、生徒の取組、研究成果の周知等

先進的あるいは特色ある教育課程の実施状況と課題

① 「アクティブ・ラーニング」を学力向上につなげるための取組と課題

主な取組②

- ◎外部人材の活用について
 - ★活用している(39校・81%)
 - ・大学関係者(31校・65%)
 - ・教育委員会(10校・21%)
 - ・企業関係者(10校・21%)
 - ・高校関係者(6校・13%)
 - ・文部科学省(5校・10%)
- ◎校内組織について
 - ・担当部署がある(43校・90%)

III 特筆すべき取組

- ◎授業づくりの3つのメソッド(神奈川県立相模原中等教育学校)
- ◎ホワイトボードを活用したALの実践(徳島県立川島高等学校)
- ◎3人グループによる公開授業の実施(滋賀県立東大津高等学校)
- ◎「華英ALマニユアル」の作成(山口県立華英高等学校)
- ◎生徒・保護者向け「SPARK通信」発行(北海道札幌北高等学校)
- ◎「スペースシート」の導入(山梨県立重崎高等学校)
- ◎生徒全員にタブレットPC配布(福島県立ふたば未来学園高等学校)
- ◎全教室ホワイトボード・単焦点プロジェクター(鳥取県立吉吉高等学校)
- ◎ミニホワイトボード・付箋紙常備(愛媛県立八幡浜高等学校)
- ◎「振り返りの時間」「KP法」の活用(秋田県立花輪高等学校)
- ◎学力向上につなげる「R80」「TO学習」(茨城県立並木中等教育学校)
- ◎メタ認知につながる振り返りの実施(東京都立瀧江高等学校)

I 概要

- ◎回答校17校は、文部科学省事業指定校(元SELHI、SSH、SGH等)や英語教育に係る県指定校が多い。
- ◎英語力向上や4技能習得を図るための学校設定科目を設けている学校が11校(23%)。
- ◎授業展開や評価に関して、多様な取組が行われている(パフォーマンステスト・ディベート・ルーブリック・エッセイライティング等)。
- ◎教員の指導力向上では、校内研修が中心。外部講師活用や外部セミナー等への参加も多い。
- ◎英語以外にも担当している部署がある学校が30校(64%)。
- ◎成果の普及については、半数以上が公開授業を実施(26校・55%)。出前授業を実施している学校が6校(13%)。